

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 附属小・教諭

氏 名 湯澤 卓

研究期間 平成30年度

研究プロジェクトの名称	地域若手教員向け授業づくりサークルの実践 ～附属から発信する教育理念と教育実践～
研究プロジェクトの概要	<p>1 研究の動機</p> <p>全国的にいわゆる中堅世代の教員不足が問題となっている。また、退職者の増加に伴い、若い世代の新規採用が増えている。上越教育大学附属小学校では、上越地域で唯一音楽専科を設け、音楽科教育と音楽的な活動の充実を図ってきた。その理念や実践例を若手教員に向けて発信することができれば、地域における教科教育の発展に寄与すると考え、本研究を立ち上げた。</p> <p>2 特色</p> <p>本研究では、若手教員向けの音楽授業づくり講座を開設する。この研究の特色として、技能的に不安がある若手教員に、普段あまりかかわりが無い附属学校教員が直接講義を行うことで、苦手意識や不安感の払しょく、また、新たなネットワークづくりなどが期待できる。また、専門性の向上に意識をもち、教職大学院など新たな学びの場を求めながらよりよい教育を目指す若手教員の育成にもつながるのではないかと考える。</p>
<p>研究成果の概要</p> <p>※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。</p>	<p>会の名前を「音楽授業づくりファンテーブル」とした。9月から12月までの計5回実施し、研修を行った。参加者は採用から10年以内の若い女性の先生が多かった。また、第2回からは大学生、大学院生の参加もあった。毎回、研究代表者がファシリテートし、お互いに実践を交流したり、授業で困ったことや、教育実習で悩んだこと、自分が課題だと感じていることをテーマにしながらワークショップを行ったりした。参会者の一人は、授業改善の取り組みを発表した。「ファンテーブル」の学びが改善のキーワードになったという報告を聞き、また参会者から賛同の声を得られたことで、現代的教育課題の解決に少しは寄与できたものとする。</p> <p>第5回では、筑波大学附属小学校音楽科教諭の平野次郎先生をお迎えし、日ごろ研究されている常時活動の実践を紹介していただき、また参会者と一緒に体験した。参会者からは「明日から使える授業技術が身に付いて」「これまでの授業デザインを考え直す機会をいただいた」と大変好評だった。</p>
研究成果の発表状況	<p>日本音楽教育学会「音楽教育実践ジャーナル」に投稿済み（特集論文として投稿／査読付き）。</p> <p>2019年8月に開催される日本音楽教育学会で自由研究発表予定。</p>
学校現場や授業への研究成果の還元について	<p>既に参会者が授業改善の取組みを行っている。</p> <p>次年度も「音楽授業づくりファンテーブル」を開催してほしいという要望が多いため、現在準備中である。</p>